

T. Rowe Price

ESGポリシー

2024年1月時点

本ポリシーは、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク（TRPA）、ティー・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメント（TRPIM）、ティー・ロウ・プライス（ルクセンブルグ）S.a.r.l.を含むその関連会社（以下、「ティー・ロウ・プライス」）に適用されます。

TRPIMは、TRPAとは別に登録された米国の投資顧問会社として設立され、独自のESGチームを有します。TRPAとTRPIMそれぞれのESGチームは、完全に独立した意思決定を行います。同様のアプローチ、フレームワーク、投資哲学を適用します。

ESGポリシー策定の背景

ティー・ロウ・プライスでは、環境・社会・ガバナンス（ESG）ファクターを運用プラットフォーム全体に組み込んでいます。当社は、ESGの課題は投資のリスクとリターンに影響を及ぼすと考えているため、ファンダメンタルズ分析の一部として組み込んでいます。加えて、当社は投資家の多くが求めるものは、純粋な投資リターンだけではないと認識しています。だからこそ、お客様の価値観に沿った運用や、環境・社会にプラスのインパクトをもたらすことのできる運用戦略も提供しています。

ESGインテグレーションとは、ESGファクターを投資分析に組み入れて、運用パフォーマンスの最大化を目指しながら、受託者責任を最優先事項とする手法です。ティー・ロウ・プライスでは、ESGインテグレーションを運用体制の核となる基礎的な要素と位置付け、株式や債券の運用リサーチ・プラットフォームに組み込み、適用可能なすべての運用戦略にて実施しています。加えて、お客様の価値観や持続可能な目標を投資に反映させることを希望する投資家向けの戦略も擁しています。

	投資リターン	ESGエンハンスド	ネット・ゼロ	インパクト
目的	競争力のある投資リターンの実現を目指します	投資リターンの達成と同時にESG特性の促進を目指します	投資リターンの達成と同時にネット・ゼロへのトランジションの促進を目指します	投資リターンの達成と同時に社会や環境にポジティブなインパクトの創出を目指します
アプローチ	運用パフォーマンスの最大化を目的としてESGファクターを分析・統合	環境および社会的な特性につき、運用目的または制限として適用 <ul style="list-style-type: none"> 除外リスト（カスタマイズ可） 温室効果ガス（GHG）削減目標 サステナブル投資への整合 カスタマイズ・ベンチマークの適用 ESG特性のポジティブ・ティルト 	ポートフォリオを1.5度シナリオと整合させるためのコミットメントを適用 <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオにおけるネット・ゼロ・ステータス ネット・ゼロ・スチュワードシップ GHG排出量削減 気候変動ソリューションとの整合 気候変動に関するPAI その他カスタマイズソリューション 	全ての投資先企業はインパクトテーマ、セオリー・オブ・チェンジ、測定可能なインパクトKPIなど当社のインパクト基準を満たすことが条件 マルチアセット・インパクト投資戦略はさらにリスク・リターンの最適化などお客様の追加的なニーズに対応

TRPIMが現在運用するネット・ゼロ、インパクト投資戦略はございません。

ESGインテグレーション

ティール・ロウ・プライスは、緻密なファンダメンタルズ・リサーチ能力を擁しています。創業者のトーマス・ロウ・プライス Jr.は世界大恐慌の最中、企業の長期的可能性は事業のリスクと機会を評価することで判断できるとの信念の下、当社を設立しました。独自のリサーチ部門は現在も当社のアプローチの中核であり、ESGインテグレーションもその一部です。

当社の投資哲学として、ESGファクターは投資判断の一要素であると考えています。つまりESGファクターは投資判断を下す唯一の要素ではなく、バリュエーション、財務内容、産業動向、マクロ経済など伝統的な投資ファクターから切り離して考慮されるものではありません。

ESGファクター—多様な投資判断要素の一部

企業は社会の一部であり、社会に影響をもたらすものは企業にも影響をもたらします。企業や発行体が具体的なESG課題にどう対処しているかを見極めることは、多くの場合、将来的な投資の成功について見通しを立てる上で役立ちます。



上記は説明のみを目的とします。

ESGファクターの運用プロセスへのインテグレーションは、投資アイデア段階における初期の研究に始まり、投資期間を通じて継続されます。この分析は、様々なステージで適用され、次のようなステップも含まれます。

- ESGデータの識別とモニタリングに基づく銘柄分析
- ESGリスクまたは「レッド・フラグ」を踏まえたファンダメンタルズ分析
- ポートフォリオ構築におけるESGリスクや投資機会の検討
- 取締役会、経営陣、非財務面のステークホルダー、または政府関係者とのエンゲージメント
- 議決権行使（株式の場合）

ESGファクターが投資家のポートフォリオに与える影響を判断する主な責任は、アナリストとポートフォリオ・マネジャーにあり、アナリストとポートフォリオ・マネジャーはESG専門チームによってサポートされています。当社のアプローチは、以下の原則に基づいて実践されます。

- **インテグレーション**—ESGファクターのインテグレーションは、ESGファクターとその他の要因とのバランスを取ることが求められます。ティール・ロウ・プライスでは、投資判断にESGファクターを組み込む責任は、リサーチ・アナリストとポートフォリオ・マネジャーが担っています。
- **協働**—運用プロフェッショナルが投資判断にESGファクターを組み込む際のサポート役として、ESGや規制関連の専門家を運用調査部門に配置しています。ESGスペシャリストは、リサーチ・アナリストやポートフォリオ・マネジャーと緊密に連携し、ESGを重視したリサーチを提供します。
- **マテリアリティ（重要性）**—運用パフォーマンスに最も大きな影響を与える可能性があると考えられるESGファクターに重点を置きます。

インテグレーション・プロセス

ESGインテグレーションのプロセスは2段階で行われます。1段階目は、当社のリサーチ・アナリストが、全体的な証券の評価と格付けプロセスの一環としてESGファクターを考慮すること、2段階目は、ポートフォリオ・マネジャーがポートフォリオ・レベルでESGファクターのエクスポージャーのバランスをとることです。アナリストとポートフォリオ・マネジャーは、いずれもESGファクターの分析を専門に行う、ESGスペシャリスト・チームのサポートを活用しています。

TRPAおよびTRPIMのESGスペシャリスト・チームは、銘柄およびテーマ別トピックごとのESG課題についてリサーチを行います。チームは「責任投資モデル（RIIM）¹」と呼ばれる独自のシステムを構築し、当社のESGインテグレーション・プロセスの根幹をなしています。RIIMには主に以下の2つのメリットがあります。

1. 当社の運用プラットフォーム全体において、ESGファクターに関するデューデリジェンスの統一基準を提供。
2. RIIMはリサーチ・アナリストやポートフォリオ・マネジャーとESGスペシャリストが、ある投資対象のESGに関わるパフォーマンスについて議論し、投資ユニバース内の銘柄を比較する際の共通言語としての役割を果たします。

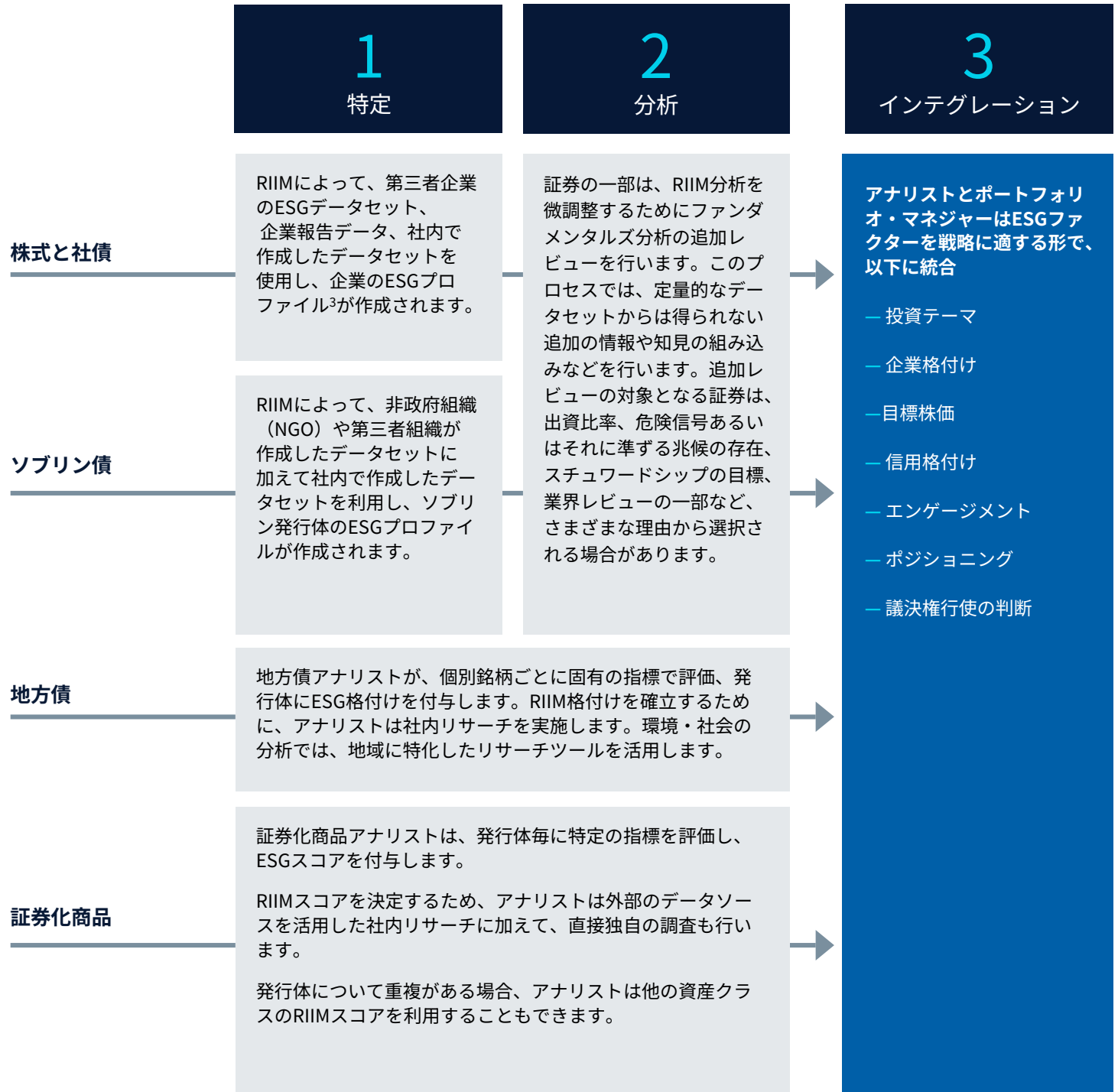
RIIMフレームワークは株式や社債、ソブリン債、地方債、証券化商品など、さまざまな資産クラスに対応しています²。入手可能なESGデータの水準および種別は資産クラスによって異なるため、資産毎に独自のRIIMフレームワークを設定しています。

株式、社債、ソブリン債の分析においては、ESGデータセットを活用し、直接RIIMのフレームワークに入力可能です。これによって、幅広い発行体に対して定量的なRIIM特性の作成が可能になります。この定量スコアは、当社のESG評価プロセスの重要な出発点であり、プラスとマイナス両方の異常値を素早く見極めることができます。また、これらが投資ユニバースを理解するうえでの基盤となり、より絞り込んだ銘柄に対してファンダメンタルズ分析を用いた、詳細な調査を行います。加えて、この定量的データを最初のステップとして使用することは、カバーできる範囲が広がるため、当社のエンゲージメント・プログラムにおいても有益です。

1 RIIMとは、TRPAとTRPIMが独自に構築した責任投資指標モデルを指します。RIIMは、緑は「フラグ無/低」、オレンジは「フラグ中程度」、赤は「フラグ高」を指す信号システムを使って発行体を格付けします。TRPAのRIIMモデルは、社債、ソブリン債、証券化商品、地方債の発行体を格付けするフレームワークを、TRPIMのRIIMは社債発行体のみを格付けするフレームワークを有しています。

2 TRPAとTRPIMにおける責任投資モデル（RIIM）の実施および監視方法は異なります。TRPIMにおけるRIIMでは、株式と社債のみを対象としています。TRPAは、約15,000以上の社債の発行体、200のソブリン債発行体、1,700の地方債発行体、1,400の証券化商品の発行体をカバーしています。TRPIMは、RIIMで約6,500の社債の発行体をカバーしています。現金、通貨ポジション、特定の種類のデリバティブを含む特定のタイプの投資については、データが不足しているためESG分析が適切でない、あるいは不可能な場合があります。ESGの考慮が投資調査プロセスに組み込まれている場合、投資決定を行う際に、投資の他の特性がESGの考慮を上回ると結論付けることがあります。

地方債と証券化商品の発行体については、ESGファクターに関するデータはまだ開発途上にあります。RIIMに直接取り込めるだけの十分な信頼性が見込めるESGデータセットが未だ入手不可能であるため、当社では(1) 識別、(2) 分析、(3) インテグレーションという3段階のESGインテグレーション・プロセスにおいて、当社のクレジット・アナリストが各銘柄についてESG分析を実施しています。この分析では、RIIMフレームワークを利用して、ESGデューデリジェンスに対する統一基準を銘柄ごとの分析に適用します。クレジット・アナリストは、社内のESGスペシャリスト、第三者のリサーチ、および独自のファンダメンタルズ分析を活用し、各発行体のRIIMプロファイルを作成します。



3 TRPAとTRPIMにおける責任投資モデル(RIIM)の実施および監視方法は異なります。TRPIMにおけるRIIMでは、株式と社債のみを対象としています。

ESGファクターの評価⁴

ある業界や地域全体で評価するデータポイントを決定する際、当社では各基準を慎重に分析し、以下の項目をチェックしています。

- そのファクターは投資先にとって重要か。
- そのファクターは、環境面または社会面の改善または悪化をもたらす重要な要因となっているか。
- そのファクターに強固な裏付けとなるデータはあるか。
- そのデータは定量的か？ 定性的か？
- データが定性的な場合、どの程度主観が盛り込まれているか？
- そのデータは均一的に開示されているか。発行体は同様の報告基準を採用しているか。
- データは業界・地域内で共通に開示されているか？

環境・社会的要因の統合に対する当社のアプローチは、セクターや業界レベルで高度に差別化されています。ビジネスモデルのマテリアリティ評価は、当社のESG分析の主要な評価項目の1つです。

	環境ファクター	社会ファクター
一般消費財・サービス	環境関連製品／電気自動車 責任ある資源（綿、合成繊維、など） 廃棄物処理	サプライチェーンにおける労働者の待遇 労使関係（労働組合/日雇い労働者） 購入者の慣例（オンライン化）
生活必需品	オーガニック製品のハイドロクロロフルオロカーボンの段階的廃止 責任ある資源（パーム油、その他農産品）	公正に取引された製品 サプライ・チェーン・マネジメント（脆弱な農産品チェーン） 人体への影響（砂糖、タバコなど）
エネルギー	メタンガス排出規制 座礁資産リスク 石油精製・化学品排出規制	従業員と請負業者の安全・衛生 地域社会との関係 贈収賄、汚職
金融	持続可能な資金調達 環境関連商品（干ばつ対策） 自然災害リスク	人的資本管理（人材確保） サイバーセキュリティ ビジネス倫理
ヘルスケア	水使用量 廃棄物処理	製品の安全性 サイバーセキュリティ 適切なマーケティング／ロビー活動の実施
資本財・サービス	エネルギー効率の高い製品 複合一貫輸送へのシフト 製造業の環境フットプリント	贈収賄、汚職（航空宇宙・防衛） 製品の安全性 ロボティクス
情報技術	スマート家電・インフラ 水使用量（半導体の場合） 製品ライフサイクル	データプライバシー 責任ある調達（紛争鉱物） 人的資本管理（人材確保）
素材	排出量 効率的な建築資材 責任ある農薬の使用	従業員および請負業者の安全・衛生 地域社会との関わり 贈収賄、汚職
不動産	環境配慮型ビル 「新しい都市」インフラ	地域社会／手ごろな住宅 人口動態／高齢化
通信	インテリジェントで効率的なネットワークインフラ	サイバーセキュリティ コネクティビティによる生活向上 責任ある調達（紛争鉱物）
公益事業	分散型電源へのシフト 再生可能エネルギー／グリッド電力へのシフト 座礁資産	従業員・請負業者の安全・衛生 地域社会との関わり 人の健康への影響（微粒子排出量）

⁴ TRPAとTRPIMの責任投資モデル（RIIM）では、資産クラスへの判断の実施および監視方法は異なります。

当社は、発行体のセクター、地域、資産クラスを考慮し、最も関連性が高いと思われるガバナンス要因に焦点を当てます。その目的は、長期的な株主価値の向上と維持を目的としたガバナンスの実践を支援することにあります。投資期間を通じて、企業分析にガバナンス評価を採用しています。コーポレート・ガバナンスの評価については、企業ごとの状況に応じたアプローチをとっていますが、以下の原則は、世界中の企業に適用できると考えています。

- 投資家に対する取締役会の説明責任の重要性
- 保有株式数に合理的に比例した株主の権利
- 独立性、多様な視点、有効性を促進する取締役会構造
- 取締役会のインセンティブ構造、会社の戦略に沿った取締役会、経営陣、従業員に対するインセンティブ構造

その他、内部統制の枠組みの堅牢性、外部監査人による適格な意見提供の有無などを考慮します。また、独立した監査委員会が、財務報告および統制の枠組みを綿密に監督することを期待します。

従業員との関係や税金に関するものを含め、ESGに関する論争があった場合、取締役会の対応に特に注意を払います。また、会社の方針、慣行、情報開示のレベルも取締役会の監督を評価する上で考慮されます。当社は、ガバナンスの実践を評価するために、定性的および定量的なアプローチを採用しています。問題の深刻度や改善がみられる状況（例えば、会社が問題を改善しようとしているように見える場合など）によっては、当社の重要なガバナンス懸念リストに追加される場合があります。

資産クラス別の考慮事項⁵

以下に各資産クラスでESGインテグレーションに使用される主なファクターを列挙しています。

	環境	社会	ガバナンス
株式と社債	調達面の適応能力 生物多様性への影響 排出原単位 環境面の実績 有害化学物質の使用 炭素税の影響 エコデザインの導入 「新しい都市」インフラ 農業の安全基準 製品の廃棄 規制の動向 跡地復旧のための引当金 座礁資産リスク 持続可能な製品の販売 持続可能な原材料 廃棄物のリサイクル（管理） 水使用量原単位	熟練労働力の確保 贈収賄／汚職の前歴 紛争鉱物の調達 顧客嗜好の変化 データ・プライバシー基準 ダイバーシティ関連データ フェアトレード調達 健康・安全面の実績 ロビー活動の基準 地域社会との関係 マーケティング基準 製品の安全性に関する実績 ロボットの導入 ステークホルダーとの関係 サプライチェーンの基準 人材の定着 技術の変化	会計基準 監査慣行 買収防衛条項 取締役会の構成 取締役会の専門性 債券のコベナント条項 財務の透明性 経営陣の報酬 株式発行方針 株主の権利

⁵ RIIMにおける資産クラス別考慮事項はTRPAとTRPIMで異なります。TRPIMのRIIMは、株式と社債のみを対象としています。

	環境	社会	ガバナンス
ソブリン債	農業生産能力 大気汚染／排出 気候変動の影響 生態系の質 エネルギー依存度 エネルギー資源 座礁資産リスク 水資源	犯罪と治安 教育水準 雇用水準 食料安全保障 人権 所得格差 制度の質 貧困 公衆衛生	債券のコベナント条項 汚職 制度の強固さ 法の支配 制度の質
証券化商品	グリーン活動への エクスポージャー（再生可能エネ ルギー、電気自動車など） エネルギー移行リスクへの エクスポージャー 気候変動の物理的リスクへの エクスポージャー グリーン・ビルディング認証 エネルギー効率	住宅価格面での入手容易性 所得格差 持ち家率 人口動態 富の不平等への寄与	債券のコベナント条項 ESG開示 内部統制とローンの条件変更基準 オリジネーターのESG基準と実績 スポンサーの実績と合法的な経歴 オリジネーターの引受慣行 規制基準 財務報告の適時性と質
地方債	グリーン活動への エクスポージャー（再生可能エネ ルギー、電気自動車、公共交通機 関など） エネルギー移行リスクへのエク スポージャー 気候変動の物理的リスクへのエク スポージャー 発行体による環境フットプリント の管理	医療サービスへのアクセス可能性 犯罪と治安 教育水準 雇用水準 社会的活動へのエクスポージャー （病院、学校、交通機関など） 所得格差 人口動態・動向 ポジティブな社会貢献 貧困水準 インフラの質	債券のコベナント条項 管理の質 ガバナンスと意思決定機関の質 公選役職者と主要職員の質 財務情報開示の適時性と質

ESGエンハンスド、ネット・ゼロ、インパクト—ESG特性を組み込んだ運用戦略

投資家の投資目標の中には、純粋に金融的要素にとどまらないものがあります。そのため、除外項目の使用、サステナブル投資の組み込み、RIIMスコアへのポジティブティルト、投資リターンと同時にネット・ゼロへの移行や環境・社会面でのポジティブなインパクトといった特定のESG目的を目指すことなどを通じて、ESG特性を促進する投資戦略を厳選して提供しています。さらに、お客様が選択したESGファクターを促進する個別運用も受託しています。RIIMは当社のESG分析の基礎となるツールで、ESG関連の目的の達成を目指す運用戦略における組入証券を評価するために当社が開発したいくつかの独自フレームワークによって補完されています。

ESGラベル付き債券

当社は、ESGラベル付き債券の信頼性を評価するための独自のフレームワークを構築しました。これにより、より強固な分析が可能となり、このカテゴリーに属する債券の継続的なモニタリングに役立っています。

発行体のESGプロフィール

- RIIMスコア
- 環境・社会面への取り組み

発行後の報告書

- 詳細なレポート計画
- 配分に関する監査報告書やインパクト報告書の開示状況

調達資金の使途

- 調達資金の使途、またはサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）の信頼性
- 未配分の調達資金
- リファイナンス
- 期限
- 未達成のSPTに関する規定

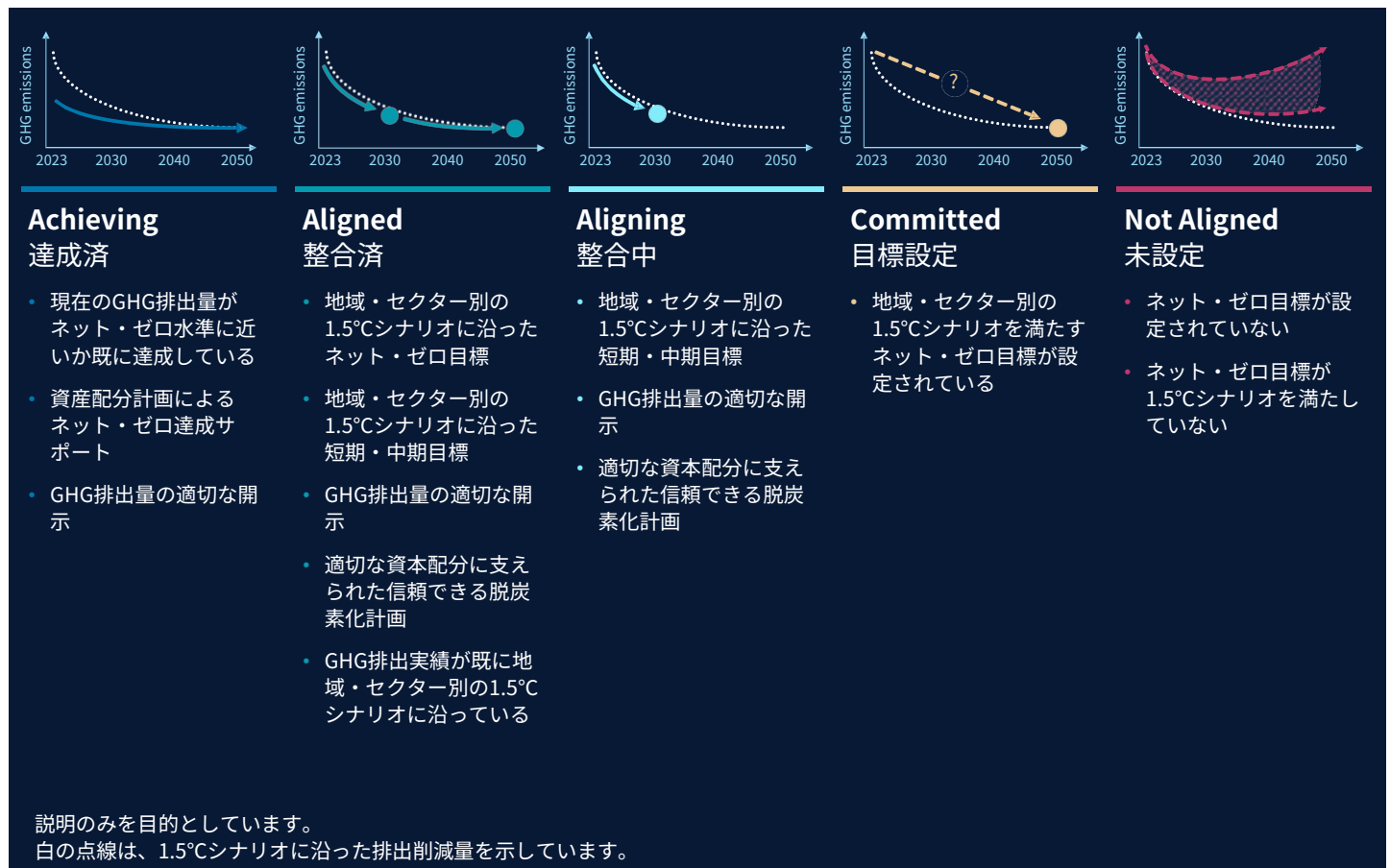
フレームワークと基準

- 国際資本市場協会（ICMA）基準への準拠
- セカンドパーティ・オピニオンによる検証
- プロジェクト選定に係るガバナンス体制

TRPIMは、ESGラベル付き債券の評価フレームワークは有していません。

ネット・ゼロの分析

私たちは、パリ協定投資家イニシアチブ（PAII）のネット・ゼロ投資フレームワークに基づき、評価されたネット・ゼロのステータスを各証券に割り当てるネット・ゼロ移行分析のフレームワークを開発しました⁶。











TRPIMは、現在ネット・ゼロ関連の運用戦略商品は運用していませんが、ネット・ゼロ・フレームワークは有しています。

6 出所：気候変動に関する機関投資家グループ（IIGCC） <https://www.parisalignedassetowners.org/media/2021/03/PAII-Net-Zero-Investment-Framework-Implementation-Guide.pdf>

インパクト投資

当社では、インパクト投資とは単にある種の企業の経済や活動を根拠に株式を取得し、取り込むだけのものではないと考えています。インパクト投資家は、環境および、または社会の望ましい成果に向けて資本を提供し、発行体とのエンゲージメントや積極的な議決権行使を活用して、最良の成果を達成することを支援します。インパクト投資は上場株式市場でもクレジット債市場でも可能であり、インパクト投資の概念をこれらの資産クラス全体に拡大することが、真に変化をもたらすことにつながると信じています。

当社のインパクト投資戦略⁷のすべての投資対象は、環境または社会にプラスの影響をもたらす可能性の評価から始まります。これは、重要性と測定可能性の両方を考慮したものです。この評価を実施するため、「インパクト・テンプレート」と呼ぶ独自のフレームワークを構築しました。このフレームワークは、以下に概説する独自の3つのインパクトのピラーと8つのサブピラーから成り、インパクトを特定するために、これらの基準を確実に実行します。当社のインパクト・テンプレートはまた、RIIM分析を活用し、他のESGリスクとともに、投資候補先の重大な損害の可能性を総合的に評価します。

気候と資源へのインパクト		社会的公平性と生活の質へのインパクト		持続可能な技術革新と生産性へのインパクト	
	温室効果ガスの削減		社会的公平の実現		持続可能なテクノロジー
	健全な生態系の推進		健康的な生活の確保		持続可能な産業とインフラの構築
	循環型経済の推進		生活の質の向上		

TRPIMは現在、インパクト投資戦略を運用していません。

エンゲージメント

ティー・ロウ・プライスは資産運用会社として、特定の重要分野で企業やその他の発行体の監督状況が不十分だと思われる場合は、積極的な株主行動（アクティブ・オーナーシップ）、モニタリング、およびエンゲージメントを通じてお客様の利益を守る義務があると考えています。当社の経験ではエンゲージメントは、現時点では深刻な懸念があるが対話を通じて改善可能であると判断される場合にポートフォリオ・マネジャーが直接主導して行うことが、最も効果的です。このような状況は、投資家にとって有意義で成功的な結果をもたらす可能性が最も高いと判断し、集中的に時間とリソースを投入し続けています。

当社のエンゲージメントは発行体レベルで実施します。発行体に特化したアプローチは、当社のファンダメンタル分析に基づくアクティブ運用に合致しているため、最も高い効果をもたらすと考えています。エンゲージメントの対象先は、ファンダメンタルズ調査やRIIM分析、ポートフォリオ・レビューを通じて特定します。また、発行体が希望するエンゲージメントを、いくつかのテーマ別プログラムで実施する場合があります。

エンゲージメントに関する詳細は、[エンゲージメント・ポリシー](#)をご覧ください。

議決権行使

議決権行使は、コーポレート・ガバナンスに対する当社のアプローチの中で極めて重要な要素です。当社は、お客様に代わり行う投票について高い透明性をもって対応しています。当社の議決権行使ガイドラインおよび議決権行使実績に関する開示情報は、[当社ウェブサイト：議決権行使について](#)よりご覧いただけます。

環境、社会問題に関する株主提案が近年増えています。ティー・ロウ・プライスでは、これらの議案を個別に分析するために、外部議決権アドバイザーからの調査レポート、企業の届け出、サステナビリティレポート、他の投資家や非政府組織、社内リサーチ・アナリストやサステナビリティ専門家による調査を活用します。概して、当該企業のビジネスとの関係性が深く、経営陣がまだ適切に対処していない問題に焦点を当てた提案に賛成します。

TRPAの議決権行使ガイドラインについては[TRPA議決権行使ガイドライン](#)、TRPIMは[TRPIM議決権行使ガイドライン](#)より詳細をご参照ください。

⁷ TRPIMは現在、インパクト投資戦略を運用していません。

協働エンゲージメントとグローバルなフレームワーク

ティー・ロウ・プライスは、協働イニシアチブに選択的かつ戦略的に参加しています。こうしたイニシアチブは、当社の中核的なエンゲージメント・プログラムを後押しするものです。どのような協働エンゲージメントが、社内の能力を支援するうえで最も有効でインパクトがあるものかを検討しています。

協働エンゲージメントへの参加を検討する際、以下の点を考慮しています。

- 整合性
 - 当社が保有する当該企業の株式とエンゲージメント機会がどの程度密接に関連しているか。
 - 当社が大株主である企業や発行体が含まれているか。
 - 協働エンゲージメントのメンバーは、エンゲージメントと同じ目的を共有しているか？
- 潜在的なインパクト
 - 協働エンゲージメントが、顧客のポートフォリオに成果をもたらす可能性があると考えられるか。
 - 協働エンゲージメントの全メンバーにとって、意図する成果が明確であるか。
- リソースの有効活用
 - 協働エンゲージメントが、社内のエンゲージメント専用リソースを最も効率的に活用できるか。
- 実用性
 - 既に同じエンゲージメント、または類似したエンゲージメントを単独で実施し、成果があったか。
- 具体性
 - 協働エンゲージメントの範囲は明確か、そして時間が経ってもそれが変わらないと確信できるか？

多額の運用資産を有する資産運用会社として、当社はESGの開示とビジネス慣行を市場全体レベルで改善する上で重要な役割を果たすことができると考えています。そのため、当社は、ESG情報開示とビジネス慣行の改善、支持、協働エンゲージメントの機会促進を目的とした様々な業界レベルのイニシアチブに参加、または主導しています。イニシアチブのリストについては[当社ウェブサイト](#)をご覧ください。

投資除外のアプローチ⁸

当社では、ポートフォリオに限定的な除外規定を設けています。当社の運用資産の大部分は、ジェノサイドおよび、または人道に対する犯罪を対象とする一連のグローバルな除外事項の対象となります。また、一部の運用資産については、市場選好が存在する特定地域の運用商品や、ESGに関連した目的を持つ特定の戦略に追加的な除外項目を適用しています。当社の除外基準に関する詳細は[ティー・ロウ・プライス 除外ポリシー](#)をご覧ください。

1. グローバルに適用される除外：

- (a) ティー・ロウ・プライスは、ジェノサイド（民族大量虐殺）や人道に対する罪を犯している政府への支援につながる恐れがあるために高リスクと判断した特定の銘柄をすべての投資対象から除外しています。同方針の対象となるのは、大量虐殺や非人道的犯罪に関する注意義務を明らかに軽視し、これらの行為に加担する政府の支援に繰り返し関与する企業です。

2. 特定の投資商品における除外：

- (b) 対人地雷や生物化学兵器、クラスター爆弾など、問題視される兵器、焼夷弾の製造、生産または組み立てに従事しているとみられる特定の発行体に対して除外方針を適用。
- (c) たばこ製品の製造に従事する発行体に対して除外方針を適用。

⁸ TRPAとTRPIMの除外リストの証券は異なる場合があります。

3. 特定の運用戦略における除外：

(d) ESGへの特化を取り入れた戦略においては、お客様にとって最も一般的なESG懸念に沿った除外方針を適用しています。対象は以下のような分野です。

- 成人向け娯楽
- 民生用の攻撃型兵器
- 問題兵器
- 賭博
- 石炭
- たばこ
- 不祥事等に基づく除外

(e) インパクト投資戦略においては、環境面や社会面でポジティブなインパクトをもたらすという当社の投資方針に沿わない発行体に対し、より幅広い除外方針を適用しています。対象は以下のような分野です。

- 成人向け娯楽
- アルコール飲料
- 民生用の攻撃型兵器
- 問題兵器
- 通常兵器
- 利益追求型刑務所
- 化石燃料
- 賭博
- たばこ
- 不祥事等に基づく除外

最終的にすべてのポートフォリオは制裁に関連した除外の対象となる可能性があります。ある時点で米国または国際的な制裁対象となっている特定のソブリン債や企業への投資を禁止する可能性があります。

責任投資に対する監督と説明責任

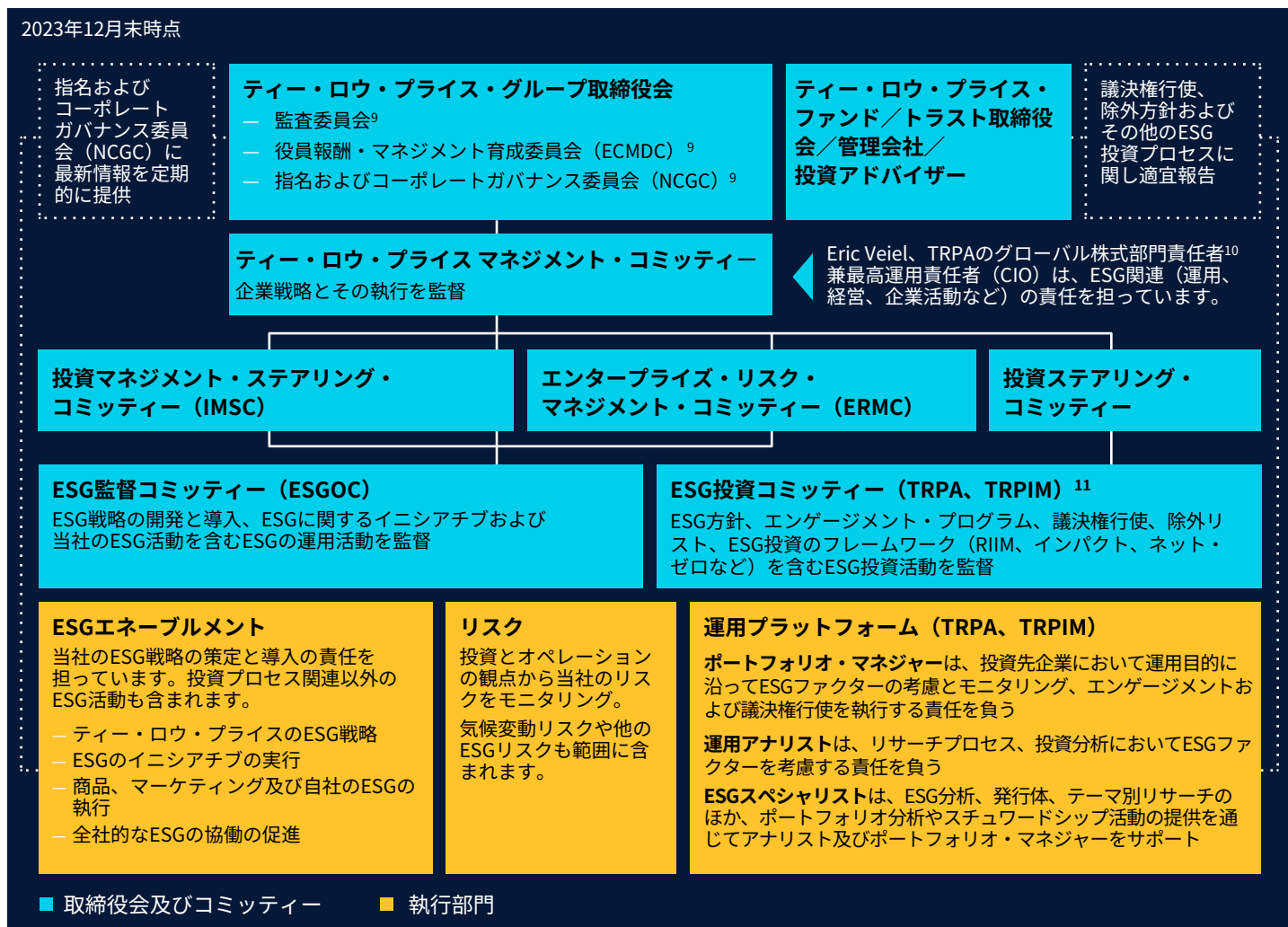
ティー・ロウ・プライスの取締役会の指名およびコーポレート・ガバナンス委員会は、社内のESG投資活動を監督しています。取締役会は定期的にティー・ロウ・プライスのESG活動の報告を確認します。

当社のESG方針、ESGインテグレーション、エンゲージメント、および議決権行使プロセスの監督は、経営幹部で構成されるESG投資コミッティーが行っています。ESG投資コミッティーは、責任投資リサーチ部門ディレクターとコーポレート・ガバナンス責任者が共同議長を務めています。同コミッティーの主な目的は、ティー・ロウ・プライスの株式ステアリング・コミッティー、インターナショナル・ステアリング・コミッティー、マルチアセット・ステアリング・コミッティー、債券ステアリング・コミッティーによる、以下の投資アドバイザーのポリシーやプロセスの確立を支援することです。

- ESG（環境、社会、コーポレート・ガバナンス）に関する課題のインテグレーション
- ESGデータと管理の進展
- ESGに関連する除外事項の策定と維持
- ESG課題に関する発行体とのエンゲージメント
- 適切な議決権行使ガイドラインの管理
- ESG投資ポリシーの監督

ESG投資コミッティーは、議決権行使の結果、方針、手順、およびその他の重要事項をとりまとめて、該当するティー・ロウ・プライス・ファンド／トラストの取締役会、関連会社や投資アドバイザーに定期的に報告します。

ESGの説明責任は取締役会・経営陣が担う



利益相反の管理体制

ティー・ロウ・プライスでは、議決権行使およびエンゲージメント活動が、顧客の利益以外に左右されることがないように対策を講じています。

営業担当者、マーケティングまたはセールスに従事する者はエンゲージメントに関係する協議に加わることはできません。

社員による個人的な利益相反に関しては、ティー・ロウ・プライスの倫理規範により、すべての従業員は自己の利益と顧客の利益が相反する可能性のある「不適切な状況」に身を置くことを回避するように義務づけられており、特定の社外事業活動に従事できないように制限しています。特定の発行体との利益相反が疑われる場合、ポートフォリオ・マネジャーは、当該発行体とのエンゲージメントに係る決定への関与は禁止されています。

当社の積極的な対外エンゲージメントは、すべてリサーチ・アナリスト、ポートフォリオ・マネジャー、責任投資やコーポレート・ガバナンスのスペシャリストなど、ティー・ロウ・プライスの運用プロフェッショナルによって行われています。エンゲージメントは、発行体とティー・ロウ・プライス間のビジネス関係にかかわらず、当社のエンゲージメント方針の規定に従って評価および実施されます。

⁹ 独立社外取締役のみで構成されます。

¹⁰ 2024年1月1日時点。

¹¹ TRPIMは、米国の投資顧問会社として別途登録され、TRPAとは別のESGチームが設置されています。TRPAとTRPIMでは、完全に独立したそれぞれのESGチームが意思決定を実施していますが、同様のアプローチ、フレームワーク、哲学を用いています。

責任投資活動に関する報告

ティー・ロウ・プライスは年1回、ESG投資インテグレーション、企業とのエンゲージメント、および議決権行使活動の詳細を包括的にまとめた報告書を発行しています。この報告書では、その年に注目すべきESGに関する課題に関する重要テーマについても詳しく説明しています。この報告書のダウンロード、またはスチュワードシップと責任投資に対するティー・ロウ・プライスのアプローチについての詳細は、[ESG：環境・社会・ガバナンス](#)をご覧ください。

重要情報

当資料は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよびその関係会社が情報提供等の目的で作成したものを、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が翻訳したものであり、特定の運用商品を勧誘するものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料はティー・ロウ・プライスの書面による同意のない限り他に転載することはできません。

当資料で提供する情報には、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクが2021年12月29日に買収したオルタナティブ・クレジット運用会社のオーク・ヒル・アドバイザーズ L.P.に関する内容は含まれていません。

資料内に記載されている個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンド等における保有・非保有および将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。投資一任契約は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。

当社の運用戦略では時価資産残高に対し、一定の金額までを区切りとして最高1.265%（消費税10%込み）の逡減的報酬料率を適用いたします。また、運用報酬の他に、組入有価証券の売買委託手数料等の費用も発生しますが、運用内容等によって変動しますので、事前に上限額または合計額を表示できません。詳しくは契約締結前交付書面をご覧ください。

「T. Rowe Price」、「INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標または登録商標です。

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会/一般社団法人 投資信託協会